

待遇表現としての受給動詞

—受給動詞の使用状況と話し手の心的態度の考察—

米 澤 昌 子

I はじめに

- 1 トガキ(ミカリ)もお土産を渡す。受け取る由太。(夏)^①
- 2 私があなたのお父さんに頂いたんですもの。(千)
- 3 やさしくしてくれてありがとう。(ふ)
- 4 旭川発東京のチケットです。お確かめ下さい。(日)
- 5 (タマネギは)よくもんであげるといいんですよ。(キ)^②
- 6 だけは商売は良心的にやらせてもらってます。(大)

物の授受関係を表す際は、通常1のような表現よりも2のように受給動詞を用いて、その際生じる恩恵の授受を表現することが多い。^③ 受給動詞には「やる・くれる・もらう」の三語があり、各々敬語(謙讓)体、「あげる・さしあげる・くださる・いただく」が存在し、三系列七語の体系が見られる。また3のように行為の授受関係を表

す際には、補助動詞として頻用される。その補助動詞は明確な授受関係を持たない4、6のような場面でも用いられ、話し手の品位保持、或いは聞き手に対する一種の待遇表現など、^④ (行為)の恩恵表現という本来の用法からの拡大を見せている。宮地氏はこのような受給動詞の頻用状況に現代敬語の特徴を認め、古代敬語から現代敬語のつまり絶対敬語から相対的社交敬語意識・場面的受惠敬語意識の推移の中に受給動詞の発達があるとされている。氏の指摘に基づき、拙稿(一九九六×二〇〇〇)では待遇表現の体系化を目的とし、受給動詞と敬語との接点を探るべく史的観点からの各語の使用状況及び待遇表現性の考察を試みた。本稿ではその史的背景を踏まえ、現代における各語の使用実態を調査し、使用状況を把握した上で各語の持つ性格・その待遇表現性の考察も併せて試みたい。

なお、受給動詞については、格の問題など構文上からの研究も多

いが、本稿は文法面からのアプローチではなく、専ら話し手の心理面に考察の中心をおいて論ずることとする。

II 調査資料

受給動詞では、話し手が与え手の立場に立つか、受け手の立場に立つかという「話し手の立場」と共に、今一つ特徴としてあげられるのが「話し手の関与」の内包である。話し手の主観の受給動詞運用上への影響である。ここでいう主観とは話し手の「行為」に対する心理面での受け止め方であり、その受け止め方により「行為」ひいてはその「行為」の当事者にどのような配慮を見せるかという話し手の意識のことである。以上のような性格を持つため受給動詞は、話し手の主観を抑え、客観性を旨とする新聞記事等での使用は少なく、会話中の使用が多い。そこで調査対象として、以下の会話資料を用いることにした。

①月刊「シナリオ」記載の12作品

- (日)お日柄もよくご愁傷さま「一九九六・六」
- (流)流れ板七人「一九九七・一」
- (私)私たちが好きだったこと「一九九七・一一」
- (大)大安に仏滅「一九九八・四」
- (風)風の歌が聴きたい「一九九八・九」(春)あ、春「一九九八・二」

待遇表現としての受給動詞

- (の)のど自慢「一九九九・二」(鉄)鉄道員「一九九九・七」
- (夏)あの、夏の日「一九九八・八」
- (サ)サラリーマン金太郎「一九九八・一一」
- (求)求婚「一九五二・八」(千)千羽鶴「一九五二・一〇」
- ②その他のシナリオ作品等ハードブックタイプなど
 - (ふ)『ふぞろいの林檎たち』「一九八八/大和書房」
 - (青)『青春家族』「一九九二/NHK」
 - (渡)『渡る世間は鬼ばかり』「一九九四/ライオンブックス」
- ③「毎日新聞」二〇〇〇年六月二日―六月二六日(料理欄・読者投稿欄・広告欄)

III 会話資料における受給動詞を用いた待遇表現

(一) 受給動詞の様相―用例数―

15作品中の受給動詞の使用数は以下の通りである。受給動詞体系がほぼ成立したと言える室町末期の調査では恩恵意識での「行為」の把握が見られるものの、まだ本動詞と補助動詞の用例数が接近していた。本調査では、圧倒的に補助動詞の用例数が多い。繰り返し述べるが、「恩恵表現」とも呼ばれる受給動詞の特徴の一つは、話し手の主観の強さ、つまり話題とする「行為」を自身の利益と関係付けて表現することである。これは本動詞として用いられるよりも、

10 「↓初対面」残らず、東京から叩き出してやる。(流)

11 「↓夫」よっぽど(娘は)佐久先生と約束してますって言うってや

らうと思っただけ、相手にするのも馬鹿馬鹿しいから(渡)

話し手が与え手の立場をとるため、相手へにお仕着せがましい感じを与えかねない。そのため、やるの使用場面が限られている。

「あげる」

一、話し手は専ら女性である。男性の「あげる」の使用は女性の「やる」の使用よりも避けられるようである。

12 「↓子」母さん、足腰立つうちは何でもしてあげるわよ。(渡)

二、「やる」の用法三に見られた用法と同じ傾向を示す。

13 「↓妹」私は母さんには何もしてあげられないの。(渡)

14 「↓母」(父の)そばについてあげて。(サ)

本来「あげる」は「やる」の謙讓語として位置付けられるものであるが、12では目上である親が子供に対し「あげる」を用いている。このような「あげる」の丁寧語化は戦後以降目立ち、問題視されているところではある。(丁寧語化については後述する)

「さしあげる」

調査中の用例数は極めて少なく、なお補助動詞は見られなかった。待遇表現としての使用はやや不活発であるように思われる。そもそも受給動詞「さしあげる」の発生期は遅く、補助動詞に至っては

拙稿^⑤(一九九六)では、戦後の作品によく認めることができた。

15 お母さんにご馳走して差し上げよう。(斜陽)

ここで「やる」系の三語に共通する特徴をまとめながら、併せて「あげる」の丁寧語化傾向についても考えてみたい。まず、「やる」は相手に恩恵を施す場面で使用するため、その使用は「お前のために私がわざわざ行つのだ」といった自己尊大的な響きを伴う。話し手は恩恵授と宣言とも言える「やる」を使用することに對し、心的部分で自身のぞんざいさを憚りを感じる。そこで本来「やる」を用いるのが適切な場面で、一段階敬意の高い「あげる」を用いることにより、みかけ上のぞんざいさを回避しようとしているのではないだろうか。このような意識をもとにした用法が「あげる」の丁寧語化の発端であつたのではないだろうか。言語化した場合、目下のものなどへの使用や、ぞんざいな響きをより嫌う女性に對しての使用が目につき丁寧語と捉えられるようになったと考えられる。いずれにする恩恵の与え手側からの表現である以上、「あげる」或いは「あげる」よりは謙讓語としての性格を保っている「さしあげる」を用いるにしろ、与え手側の恩恵授と宣言には変わりない。そのため、受け手に対して、丁寧さや礼儀を重んじる場面では受給動詞の使用は見られず、次のように表現されることが多い。

16 「↓婿の父」よろしかったら、どうぞ。(春)

17 「↓恋人」代わろうか。 (私)

「くれる」

一、親しい間柄で行為に対する感謝を意図し、積極的に使用される。

18 「↓友達」こつやって呼び出して^てくれ、嬉しいわ。(ふ)

二、依頼形が多く見られるが、多くは男性の発話によるものである。

19 「↓妻」腫を呼んでくれ。(日)

三、女性が使用する依頼形の語は、「^てくれない?・くれる?」ぐらいで、用例数の少なさに繋がっている。例えば、不特定の相手に命に関わる助けを求める際にも先に述べたように男性と女性では表現に異なりが見られる。

20 「男」誰か、誰か、助けてくれ。(サ)

「女」マサトツ。誰か助けて。(サ)

四、無生物を与え手とする表現が見られる。なお、与え手が無生物であるような用法は、「^らう」では見られない。

21 「↓恋人」私が殺した子供のことも時が解決して^てくれる。(私)

与え手が無生物である以上、話し手の与え手への配慮は弱いと考えられる。「^てくれる」の待遇意識は与え手ではなく「行為」そのものへ向けられたものではないのだろうか。

五、相手を蔑む場面では、与え手側に立った使用が見られる。

22 「子供↓浮浪者」ジュース欲けりゃ、^てくれやらあ。(春)

六、皮肉を意図する場面でも使用される。

23 「母↓息子」またお母さんに恥かかせて^てくれはったな。(ふ)

五、六は「やる」同じく敢えて「^てくれる」本来の用法において違反を起こすことで、話し手の感情の高まりが表現されている。

「^てくださる」

一、広範囲の関係において専ら依頼場面で頻用され、ほとんどが「^てください」の語形での使用である。

24 「↓売り手」ウナギ弁当^二つ下さい。(夏)

25 「↓夫」もっと明るい顔して^てくださいよ。(渡)

親しい間柄にも、見ず知らずの人間にも使用され、買い手↓売り手間での表現に重宝される。「^てください」「^はくれる」の尊敬語という意識は薄く、頼むというよりは命令的である場合も見られる。

26 「ホテルマン」あなたも一緒に探してください。平岡様の小銭を一緒に探してください。

「客」なによ。あなたお客に命令する気?

「ホテルマン」はい。命令します。(ホテル) 6/17 放送)

二、「^てくださる」の敬意は、「^てください」に比べ高く、「^てくれる」の敬語として位置付けられる。本調査での用例の多くが、謝辞などを述べるスピーチ中のものであった。

27 「↓不特定」……ご支援^下さいました皆さまのおかげと……(サ)

三、「くださる」は昭和二十年代には今よりは幾分使用数が多い。

28 「↓客」すべての玉子料理にお使い下さいませすほか、天ぷら…

29 「↓見合い相手」お引き合わせ下さる方がいないんですもの。

(千)

「もらう」

一、本動詞は特定の意味を持つ。(給料を得る・嫁を娶る・買つ)

30 「↓息子」気に入ったら、そろそろ買つたらどつた。(千)

31 「↓売り手」買いますよ、三組。(流)

二、積極的な行為受容要求表現としての使用が目立つ。なお、話し手本位の行為遂行の強い意思を示す場合もある。(第IV章で後述)。

32 「↓顔見知りの学生」がうちり、三千円もらうぞ。(ふ)

33 「↓雇用人」(退職金は)ちゃんと考えさせてもらいますから。

(渡)

三、話し手は受け手との心的距離を強く意識していると思われる。

34 「↓娘」ハイヤーの運転手さんに、一寸待って買つて。(日)

35 「↓息子」それまで、ここに置いてもらえんかのう。(春)

(日)では、家族間で「くれる」は頻用されるが、「もらう」の使用数は少なく、話し手からの心的距離が遠い人間に用いられる。35

は、父子間の会話であるが、父親による数十年ぶりの我が子への発話である。無生物が与え手には立たないことから「もらう」は

(行為) 自体ではなく、行為者への配慮を示す語と言えはしないだ

ろつか。そのため依頼時の使用は「くれる」より、丁寧な表現となり得るのではないか。

36 「↓参加者」番号を受け取ってください。(の)

37 「↓雇用人」悪いけど、やめてくれませんか？(ふ)

トガキ「雇用人」…(無言)…

「↓雇用人」すみませんけど、自分からやめて買えませんが。

37では話し手は最初は「くれる」を用いて依頼しているが、相手容易に承諾しないことがわかると、「すみません」という言葉を用いるなど、話し手の相手への丁寧さは増すが、その際には「くれる」ではなく「もらう」を使用している。「くれる」と「もらう」の性格の違いについてはIV章で考えることにする。

「いただく」

食事の際の用法や、話し手の「行為」遂行時の「させていただく」などの頻用(後述)など、受け手側の与え手側への謙讓表現という本来の用法から使用場面の拡大が見られる語であると言えよう。

一、本動詞は食事のあいさつとしての用法を持つ。

二、他者が食事することの丁寧語的表現として用いられている。

38 「↓兄の友達」京子さんも一緒にお茶でも戴きましょうよ。(千)

39 冷めてもおおいしく戴けます。(金) 食卓の一品 毎日(日)

三、話し手が心的距離をやや意識する人物に対して、かなりの無理を言う際「させていただける」を用いた依頼表現をとる。

40「↓仕事相手」何とか受注させて戴けませんでしょうか(サ)

四、「もぎつ」二の特徴と同じく依頼場面での用例数が多い。また、強い行為遂行の意思を示す場合もある。(第四章参照)

41「↓息子の恋人の家族」采作の嫁に来ていただきとおます。(渡)

IV 使役形と受給動詞

「〜させていただけます」の位置づけ

まず、受給動詞が使役形に下接した用例数と実際の用例をあげることにする。下表から分かるように、使役形+「てもらう」系の語の用例が圧倒的に多い。

42「↓父」だから今までいさせてやったんじゃないか。(春)

43「↓娘」お前には家庭の幸せを味あわせてやりたい。(風)

44「↓母」父に好きなことさせてあげなさいよ。(渡)

45「↓父母」仕事は誰にでも夢を持たせてくれる…(渡)

46「初対面」お店にちょっといさせて下さい。(渡)

まず、「やる」系の語であるが、使役形と結びつくとその grond さいさを増すことから、42、44 のように「行為」の受け手 || 聞き手) はごく親しい人物に限定されている。

語	合計数	用例の見られた作品及び各用例数
させてやる	15	(渡)9 (ふ)2 (春)1 (私)1 (風)1 (求)1
させてあげる	7	(渡)5 (の)2
させてさしあげる	0	
させてくれる	10	(渡)5 (大)2 (流)1 (の)1 (風)1
させてくださる	8	(ふ)6 (流)1 (の)1
させてもらう	43	(渡)12 (春)6 (流)6 (大)5 (サ)4 (ふ)3 (夏)2 (鉄)2 (の)2 (青)1
させていただく	31	(大)3 (日)2 (流)5 (千)4 (サ)4 (の)4 (渡)6 (青)2 (ふ)1

では息子の父への怒りの強さをも意味している。また「あげる」の用例は聞き手⇩受け手の場面でのみ用例が見られた。次に「くれる」「系の二語であるが、第三章の表が示すように、「くれる」系の二語の全体的な用例数が多いものの、使役形に下接した形での使用は少なかった。最後に使役形+「てもらう」「ていただく」の頻用について考察を試みたいと思う。

47「↓同僚」じゃ、悪いけど、そうさせてもらおうかな(言)

48「↓嫁の母兄」手伝わせていただきます。(渡)

49「↓役所職員」いろいろ勉強させてつてるツス。(サ)

50「↓出席者」新郎・新婦の御紹介をさせて戴く次第でございます。(日)

51 「↓客」雨漏りだつてタタでやらせてもらつてるんです。(大)
52 「↓店子」今月限りで、契約を切らせてもらうよ。(流)

53 「↓聴衆」わがままを言わせていただき、転職させていただく
ことになりました。(青)

54 資料をお宅まで届けさせて戴きます。(六、森木「毎」広告欄)

47・48は相手から話し手への使役行為が何われ、「させてもらう」「させていただく」、本来の用法であるが、49-54は使役表現はとももの、話し手自身が自らの意志で行っているものである。相手からの話し手への明確な使役行為は見受けられない。なお、使役形を用いる意図は何か。この拡大用法は近年特に商業界における売り手側、或いは不特定多数を聞き手としたスピーチなどで話し手にその使用が目立つ。宮地氏は現代敬語の社交敬語性を指摘されたが、これらの場面で話し手自らの利益につながる「行為」、或いは話し手の自分本位な「行為」の遂行宣言を行う際は、聞き手にとって失礼となりかねない。そこで、この拡大用法は丁寧さ、礼儀が特に必要であると捉えた話し手による聞き手への配慮を意図したものとと言えるのではないだろうか。金田^⑪一氏は聞き手に不快感を与えない話をするには、相手に関係ない、相手が興味のないことをむやみに話題にしてはいけないとされている。例えば、50のような使用が見られる披露宴ではスピーチ者の話す内容が聞き手はよく分からない内

輪の話であつたりする場合が多い。初対面の人同士が、自分に関係ないと感じず、共通の認識を持つことが、その場を快く過せる大切な要素となる。「させていただく」という表現の使用で、聞き手側は表現上において、話し手の「行為」の使役者として共通の認識を持つことができるわけである。話し手が自身の行為を聞き手が快しとしないかもしれないことを危惧して、実際はともかく表現形式上で相手が使役を行っているようにしたてているわけである。話し手の「行為」遂行の決定は相手を無視したところで成立しているのではなく、恰も相手に決定の意志があるかの如く感じさせることで、丁寧さが増すものと思われる。使役を用いる理由はひとまず考察できたとして、では、なぜ使役+「てくれる」系の語ではなく、「てもらう」系の語が頻用されるのか。そこでもう一度、「てくれる」と「もらう」の二語の性格を確かめておく。

共に受け手側に立つた表現であるが、文法面の違いはいうまでもなく、主格に与え手側をおくか、受け手側をおくかの違いである。しかし、ここで扱いたいのは「行為」に対する話し手の心的な受け止め方である。「てくれる」と異なり、「てもらう」のみに見られる特徴として、佐久間氏や森田氏の指摘に見られるが如く、受け手側の「働きかけ」が一般的に指摘される。「てもらう」が「働きかけ」を意味する理由は、拙稿^⑫(一九九〇)の史の変遷での考察が大

きな示唆を与えてくれる。「眞」は「ゆるす」を意味する漢字であり、漢文での使用例の影響を受け、中世期では「相手の許しを乞う、頼んだ結果許される」の意をもつ語であった。このような中世での用法が現在に残っていると思われる。一方、「てくれる」であるが、大江氏¹⁸⁾はその特徴を、積極的に行為の実現を目指すのではなく、言わば与え手本位の行為への話し手の「感謝・期待」という感情の表現であると指摘する。(用例18参照)この特徴も実は史的観点に立つと納得できる。「くれる」は中世期に入るまで、話し手が与え手の立場をとる用法を有していた。与え手側からの表現である以上、「行為」は自ずと与え手本位となる。「てくれる」の「与え手本位」は「くれる」が古くに持っていた意味用法であると言えよう。

二語の性格を整理した上で、再度使役形を伴う場合を検討したい。19・35のように「てくれる」「てもらう」単独の場合、相手に上接する動詞の遂行を求めることを意味するが、使役形を伴う45・54のような場合ではその動作を行うのは話し手である。話し手が自身の行為の実現を相手に依頼するわけである。依頼場面において、語形として命令形をとり、しかも相手本位の「行為」を示す「くれる」系の語を用いるよりも、「相手に許しを乞う・許可を得る」という相手への配慮を内包する「もらう」系の語を用いる方が、丁寧さが

増すものと思われる。さらに両者の決定的な違いは49・54のような一見相手の意志・命令により話し手が自身のための「行為」を行うように思われる場面での使用である。実際は、相手の意志など存在しない、話し手の行為遂行宣言とも言えよう。先に述べたように「与え手本位」の表現である「くれる」を用いて話し手が自らの意志による行為遂行宣言をすることは難しいだろう。単独の「もらう」の使用は、自らの「働きかけ」により相手に行為を求める表現であったが、使役形を伴うことで、新たに47・48のような相手に自らの「行為」の許しを乞う、つまり「許可」を得る表現となつたわけである。さらに、それにとどまらず、丁寧さを重んじる場面において、49・54のように話し手は自らの「行為」が自分本位の独りよがりなものとならぬよう、言わば見せかけ上の使役表現でもって、恰も相手の意志を尊重しているという心的態度を見せる用法が生じた。そのような見せかけの用法は、誤用と見る立場もあるが、いずれにしても話し手が丁寧さを意識する場合、事柄の実現が相手の意志であり、それは相手に許され、認められた結果であるという心的態度を表現することが、相手への敬意に繋がると考えられているのではなからうか。

V まとめ

以上、各受給動詞の使用状況から各語の意味・用法の特徴を使用場面を踏まえ、話し手の意識から把握できたと思われる。各語の考察については各々の項に述べたので改めて言及しないことにして、受給動詞の意味する待遇性について触れておく。現代における受給動詞の特徴的傾向として、「あげる」の丁寧語化と「させてもらう(いただく)」の拡大用法の頻用が見られた。これらに見られる敬意は敬語における従来の敬意とは異なる。つまりこれらの傾向は「あげる」においては、相手のためである「行為」の遂行表現に伴うぞんざいさの回避、「させてもらう(いただく)」においては、話し手の「行為」遂行に対する聞き手の「許可」を重んじるといったように、何をもちて他者を尊重するか他者に敬意を示すかということが変わりつつあることを示しているのではないだろうか。やはり、受給動詞は従来の敬語との接点を探りながら、待遇表現として体系の中で共に捉えていく必要があると思われる。今後の課題としたいと考えている。

(引用文献)

① II 調査資料参照

待遇表現としての受給動詞

- ② 「キュービー三分クッキング 六/一三 放送」
- ③ 「授受動詞」とも呼ばれるが本稿では宮地氏に従い「受給動詞」と呼ぶ。
- ④ 以後、〳〵でくつた行為は、話題とされる授受関係にある行為を意味する。

- ⑤⑩ 宮地 裕、「敬語史論」、『講座日本語学』九 一九八二 明治書院
- ⑥⑦⑧⑨⑭ 「受給動詞の史的変遷」、『同志社国文学』(一九九〇 一二)
- 「待遇表現としての受給動詞—中世末期の授受表現の体系からのアプローチ」、『同大語彙研究』二二〇〇〇 三

- ⑪ 金田一春彦、「話コトバの敬語的表現」、『言語生活』一九六四 一二
- ⑫ 佐久間嶋現代日本語の表現と語法《増補版》、一九六六 恒星社厚生閣
- ⑬ 森田良行、「基礎日本語」一九七七 角川書店
- ⑮ 大江三郎、「日英語の比較研究—主観性をめぐって」一九七五 南雲堂

(参考文献)

- 1 玉村文郎、「日本語学を学ぶ人のために」一九九二 世界思想社
- 2 宮地 裕、「やる・くれる・もらう」を述語とする文の構造について」、『国語学』一九六五 一一二
- 3 G・リーチ、「語用論」一九八七 紀伊国屋書店
- 4 金田一春彦、林大 柴田 武 編集責任、「日本語百科大事典」一九八八 大修館書店

(付記)

本稿のテーマは学士論文、修士論文における考察を踏まえたものであり、本テーマへの取り組みに際しては在学中より玉村文郎先生にご懇切なご教授、ご指導を賜った。厚く御礼申しあげたい。また、本稿の作成にあたって、藤井俊博先生に、ご指導、ご評言をいただいたことにより感謝申しあげる。